

(6) スモモ
ア 殺菌剤, イ 殺虫剤

農 薬 名	成 分 名	系 統 名	RAC コード F:殺菌 I:殺虫	適 用 病 害 虫 名										注 意 事 項	
				黒 斑 病	ふ く ろ み 病	ゆ 合 促 進	ア ブ ラ ム シ 類	シ ン ク イ ム シ 類	カ イ ガ ラ ム シ 類	ウ メ シ ロ カ イ ガ ラ ム シ	ハ マ キ ム シ 類				
〈 殺 菌 剤 〉															
アグリマイシン-100	オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン	混合剤	F:41・25	◎											
アグレプト水和剤 マイシン20水和剤	ストレプトマイシン	抗生物質	F:25	◎											
石灰硫黄合剤	硫黄	無機殺菌	F:M02・I:UN		◎					落					落:【落葉果樹登録】
チオノックフロアブル トレノックフロアブル	チラム	有機硫黄	F:M03		◎										
トップジンMペースト	チオファネートメチル	ベンゾイミダゾール	F:1			小									小:【小粒核果類登録】，塗布
ナリアWDG	ピラクロストロビン・ボスカリト	混合剤	F:11・7		◎										
バリダシン液剤5	バリダマイシン	抗生物質	F:U18	◎											
マイコシールド	オキシテトラサイクリン	抗生物質	F:41	◎											
ムッシュボルドーDF	塩基性硫酸銅	無機殺菌	F:M01	◎											
ICボルドー412	塩基性硫酸銅	無機殺菌	F:M01	◎											
Zボルドー	塩基性硫酸銅	無機殺菌	F:M01	◎											
〈 殺 虫 剤 〉															
アクタラ顆粒水溶剤	チアメキサム	ネオニコチノイド	I:4A				小								小:【小粒核果類登録】
アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン	ネオニコチノイド	I:4A				小	小							小:【小粒核果類登録】
ウララD F	フロニカミド	その他	I:29				小								小:【小粒核果類登録】
エクシレルSE	シアントラネリブロール	ジアミド	I:28						◎						
オリオン水和剤40	アネカルブ	カーバメート	I:1A				小								小:【小粒核果類登録】
コテツフロアブル	クロルフェナピル	その他	I:13							小					小:【小粒核果類登録】
コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	その他	I:9B				小		小						小:【小粒核果類登録】
サムコルフロアブル10	クロラントラネリブロール	ジアミド	I:28						◎		◎				
スカウトフロアブル	トラロトリン	ピレスロイド	I:3A				◎	◎							
ディアナWDG	スピネトラム	スピノシン	I:5								◎				
テッパン液剤	シクアネリブロール	ジアミド	I:28					小							小:【小粒核果類登録】
バリアード顆粒水和剤	チアクロプリト	ネオニコチノイド	I:4A				◎	◎							
ダーズバンDF	クロルピリホス	有機リン	I:1B						◎		◎				
ダントツ水溶剤	クロチアニジン	ネオニコチノイド	I:4A				◎								
トランスフォームフロアブル	スルホキサフロル	その他	I:4C				◎			◎					
フェニックスフロアブル	フルベンジアミド	ジアミド	I:28						◎						

ウ 病害虫防除法（スモモ）

（ア）黒斑病 *Xanthomonas campestris* pv. *pruni*

（防除のねらい）

病原細菌は枝病斑で越冬し、開花期頃に降雨量が多いと発生しやすい。特に強い風を伴った雨が続くと多発する。

薬剤散布は開花期から新梢伸長期に行うが、薬剤による完全な防除は期待できないので、耕種的防除に重点を置く。

（耕種的防除法）

- （1）冬季のせん定時に罹病枝を除去する。
- （2）防風垣の整備を徹底する。
- （3）肥培管理を良くし、樹勢を強める。

（イ）ふくろみ病 *Taphrina pruni*

（防除のねらい）

被害果を発見次第除去することが大切である。また、薬剤防除は2月中旬が適期である。

（ウ）アブラムシ類

（防除のねらい）

モモアカアブラムシは3～4月にふ化し、4～5月に新葉を著しく萎縮させる。モモコフキアブラムシは新葉の裏面に寄生して、すす病を併発させる。

被害葉は硬化し、白粉状のろう物質で汚れる。葉が巻葉したり群生し重なりあって寄生してからでは薬剤の効果が劣るので、発生初期に防除する。

（エ）ナシヒメシンクイ

（防除のねらい）

成虫は年6～7回の発生で、第1世代は4月下旬～5月上旬に発生する。第3～4世代が発生する7～8月は発生量が著しく多くなる。

薬剤散布は5月下旬～6月に重点をおき、2～3回行う。薬剤散布だけでなく耕種的防除を組み入れるとさらに効果的である。

（耕種的防除法）

- （1）8～9月にバンド誘殺を行い、冬季に取り外し処分して、越冬密度の低下を図る。
- （2）被害新梢、被害果は早期に摘除する。

（オ）クワシロカイガラムシ

（防除のねらい）

年3回発生する。越冬雌成虫は4～5月にかけて産卵する。第1世代成虫は6月上旬から出現する。薬剤防除は、発芽前と幼虫発生期の4月下旬～5月下旬に行う。